

令和6年度 第一回 学校運営協議会 議事録

司会：副校長、河野会長 記録：教務課長

日 時 令和6年5月15日（水） 午前9時30分から午前11時30分まで

場 所 伊豆田方分校 パソコン室 （田方農業高校北館2階）
田方郡函南町塚本961

内 容

副校長挨拶

〔副校長〕今年度、伊豆田方分校に赴任した。年度当初に進路指導主事と関係機関に挨拶回りをして、伊豆田方分校と地域とのつながりが強いことを感じた。学校が入れない家庭の部分においても支援が行き渡っている。関係機関の皆様が伊豆田方分校の生徒のことを理解して支援してくださっていることがよくわかった。在校中から卒業後まで障害のある人を支援するネットワークが構築されているのは伊豆田方分校やこの地域の強みになっている。この学校運営協議会でも皆さんとのつながりの中で力添えをいただきながら活性化させていきたい。

令和6年度学校運営協議会年間活動予定

1 第1回学校運営協議会

- (1) 日 時 令和6年5月15日（水） 午前9時30分から午前11時30分まで
- (2) 内 容 学校経営目標の確認と協議「学校運営協議会の具体的支援について（仮）」

2 第2回学校運営協議会

- (1) 日 時 令和6年7月3日（水） 午前9時30分から午前11時30分まで
- (2) 内 容 講演会とシンポジウムに向けた準備・打合せ

夏季研修会

- (1) 日 時 令和6年7月30日（火） 午後1時30分から午後4時まで
- (2) 内 容 講演会とシンポジウム（葦山時代劇場にて）

3 第3回学校運営協議会

- (1) 日 時 令和6年10月23日（水） 午前9時30分から午前11時30分まで
- (2) 内 容 前期活動報告と協議「今後の取組に向けた学校運営協議会の参画（仮）」

4 第4回学校運営協議会

- (1) 日 時 令和7年2月4日（火） 午前9時30分から午前11時30分まで
- (2) 内 容 学校経営評価と協議「次年度における学校運営協議会の具体的支援（仮）」

委員紹介

【学校運営協議会委員】

氏 名	所 属 等
河野 真人	社会福祉法人 伊豆の国市社会福祉協議会 会長
鈴木 志津子	相談支援事業所 サニープレイスカンナミ 相談支援員
岩田 聡志	就労継続支援B型事業所 志～cocoro～ 管理者
海野 貴	株式会社 うみのワークス 代表
鈴木 文子	沼津特別支援学校 伊豆田方分校 PTA 会長
内山 智尋	静岡大学 地域創造学環 講師 社会福祉学 博士
鈴木 隆臣	株式会社 富士山ドリームビレッジ 相談役

【学校教職員】

氏名	役職など	氏名	役職など
青木 暁乃	校長	高木 亮	副校長
佐藤 貴志	部主事	佐藤 保寿	副主事 教務課長

本年度の学校経営計画概要等説明 ※別紙参照

- 〔 副校長 〕 グランドデザインを基に主旨を説明
- 〔 海野様 〕 アサーティブという表現についてはわかりにくさがある。一般的にわかりやすい表現がいいと思われる。
- 〔 岩田様 〕 アサーティブという言葉が教育のトレンドになっているようなことは福祉業界でもあり、表現は業界ごとにズレが生じることがある。みんなで共有、共存できることが望ましい。生徒が見たときも、生徒がわかる表現、漢字を含めて全部読めるような表現であることが大事だと思う。
- 〔 部主事 〕 主旨をわかりやすい表現にして、トレンドの言葉を括弧で示すこともできるのではないかな。
- 〔 副校長 〕 生徒、保護者、関係機関の皆様など学校に関係する方々と考えを共有していくことは大切なことである。双方向に理解し合える表現を大切にしていきたいと考える。

学校経営目標の承認 ※別紙参照

- 〔副校長〕 学校経営計画書を基に主旨を説明
- 〔委 員〕 学校経営計画書の内容を全会一致で承認

授業参観

※副校長、部主事の案内で、委員の方々に生活単元学習の授業、校内の学習環境を参観していただいた。

協議

「夏の研修会の実施計画について」

【基調講演に関すること】

- 〔 内山様 〕この場では主に基調講演の内容について、現時点での構想についてお伝えしたい。テーマは「地域で輝く分校生徒を地域と共に思い描く（仮）」と考えている。福祉という観点からは、最近、特に地域とのつながりが注目されている。実際、人が生きていく中で地域との関係は切り離すことができない。地域で活躍したり、やりがいを見つけたり、つながりをもつことが大切だということが改めて認識されつつある。実際に地域に目を向けると、人口減少、少子高齢化、人間関係の希薄化といった、地域の力が弱体化している現実がある。福祉については、不幸をなくす、不幸を減らすといった視点で捉えがちだが、幸福を作る、幸福を増やすといった一連のアクションという位置づけで何ができるか、障害のある人と地域で共に生きるということを考えていける機会となるとよい。
- 〔 河野様 〕内山先生が懸念されている地域の力、コミュニティの力の衰退は顕著である。社会福祉協議会や赤十字の会費は全世帯の全国的にも7割程度しか集まらない。地域の自治会にも属さない世帯も多くなっている。
- 〔 海野様 〕本来 PTA で行う校内清掃（プール清掃）を業者に依頼されることがある。保護者の協力、学校内の保護者や地域のつながりにも変化がある。

→一般的に地域の力の弱体化が見られている。人の価値観、人とのつながり方など時代と共に変化している。現代における地域社会の課題や現状を共有しつつ、障害者福祉の地域における今後のあり方を考えていく。

【運営や準備に関すること】

- 〔 海野様 〕研修会の参加者の対象について知りたい。
- 〔 副校長 〕在校生、保護者、卒業生、福祉事業所の利用者、伊豆地区の行政、教育関係、自立支援協議会等を対象に考えている。
- 〔 河野様 〕準備期間を考えると早めに着手したい。内山先生やパネラーのいい話が聞ける機会なので、より多くの人に聞いていただきたい。チラシの印刷や配布について早急に行っていきたい。
- 〔 鈴木隆臣様 〕会場のキャパシティーはどれくらいになるか。
- 〔 副校長 〕韮山時代劇場大ホールで400人ほどが入る。現時点で半日抑えている。
- 〔 海野様 〕平日の昼間なの参加者が少なくなるのが心配される。
- 〔 副校長 〕学校は夏休み期間となる。関係機関の方には業務として参加していただけたらありがたい。人数によって、ホール内で座席を中央に限定するなど運営を工夫したい。警備等の人材は、伊豆田方分校職員や PTA 研修委員会の協力で行う予定である。

→学校は具体的な準備を加速させる。周知していくための広報は急務である。委員は各立場で関係先や地域への周知を行う。

【第2部シンポジウムの内容や方向性に関すること】

- 〔 海野様 〕パネラーとして話をするのに、内容を考えるのに苦労している。生徒や保護者、聞いている人にプラスとなるように、「働く」という面で具体的な方がよいか。
- 〔 内山様 〕具体的な話がよい。私の講演では、第2部で具体的な話を聞く機会となると想定して、事例を挙げつつ情報提供する、身近に感じられる内容を話していきたい。

- 〔 副校長 〕 学校のイメージとしては、令和 4 年度の伊豆の国市自立支援協議会一般報告会（資料配付、教員と在校生もパネラーとして参加）で行われたパネルディスカッションを想定している。
- 〔 内山様 〕 資料に、その後の反響への期待と書かれている。研修会に参加した人が何か行動を起こすかということをイメージして伝えるとよい。
- 〔 岩田様 〕 地域への反響は期待したい。かつて事業所を現在地に移転する際に、地域住民への説明会で大反対にあった。「どんな人が来るんだ？」「敷地から絶対出さないように」「子供たちの通学路だから重ならないように」などと言われた。障害者に対する偏見があった。疎外感を感じた。現在は 5 年が経った。2 年前には地域の人が集まれる敷地の広いコインランドリーをオープンさせた。クレーンゲームやマッサージチェアなどを用意したり部屋の無償貸出をしたりしている。現在は要望書に感謝の気持ちが綴られるようになった。地域に寄り添い、障害者についてよく知ってもらうことが地域とのつながりに大切なことだと感じている。
- 〔鈴木隆臣様〕 今まで学校現場にいて、学校寄りの見方をすることが多かったが、今、福祉の立場となってこの場で話を聞き、改めて違う視点で考えることができた。障害者支援施設を立ち上げる際には苦労が伴う。障害者支援施設を地域に建てる際には、最初に説明を丁寧にし、その上で歓迎され、地域とつながっていききたい。
- 〔 海野様 〕 初めて伊豆田方分校の生徒を見た時は正直驚いた。「本当に障害があるの？」と思った。これまでに知的障害の人と関わったことがなかった。我が社の職人と変わらないように見えた。そのため、卒業生の受け入れにも抵抗がなかった。当時、実際の生徒の実態をわかっていなかった。こういう講演会に一般の人が多く参加すればすごくいいと思う。
- 〔鈴木文子様〕 私自身、弟と妹が立位や発語が困難な障害（肢体不自由）があった。私は中学生だった頃、障害と言ったらこのような状態（肢体不自由）のことだと理解していた。そして、私の子ども（伊豆田方分校在学中）は心臓に穴が開いた状態で生まれ、歩行や発語も遅く、コミュニケーションをとることが難しかったので小学校 1 年から特別支援にお世話になっている。今年、同じクラスの子とも接しても「普通」「普通と変わらない」という印象である。一般の方には知的障害について理解が難しい現状があるので、知的障害について、知的障害の子どもの存在や特性について知ってもらいたい。
- 〔鈴木志津子様〕 皆さん、地域の方に理解していただくように取り組んでいる。その努力によって地域の方から理解を得られたり信頼関係が築かれたりしつつある。私の立場（相談支援事業所相談員）では、障害のある方の生活上の問題に対して市町の福祉課と連携を取り合うことが多い。現状、問題が起きてから地域の人に認知されることは多い。障害の特性による問題もあるが、魅力もわかってもらえるとよい。時間はかかるが、問題を解決する過程をとおして理解が深まり、個性的な人という認識で受け入れられていったケースもあった。問題や偏りもあるが、能力や体力面でできることも多い。今後も市町福祉課や就労継続支援事業所とつながりながら地域で生きる障害者を支援していきたい。
- 〔 内山様 〕 委員の皆様の経験や意見を聞いて改めて「知る」ということ、知る機会をお互いに作っていくことが大切だということが共有できた。

→この学校運営協議会の時間だけでも多くの情報共有がなされた。研修会は、各委員の立場（学校、福祉、就労）における経験や実践を踏まえた内容を、よかった面も悩んでいる面も含めて地域の方に知っていただくことで、知的障害の理解や地域に生きる障害者とのつながりを考えるきっかけになってほしい。